

分身ロボットに係る障害者雇用率の算定の特例

つくば市

障害者就労支援試行業務 事業概要

つくば市は、昨年度に引き続き、「ロボットによる障害者の社会参画支援」を行うため、「コーヒーファクトリー スタートアップカフェ」及び「つくば市立中央図書館」において、障害者が遠隔地で操作する分身ロボットによる接客等の実証実験を実施する。

今回の実証実験は、昨年度の実証よりも長期間にわたって行うとともに、障害を持つ市民等の分身ロボットによる就労可能性の検証も行う。また週10時間未満の短時間雇用等、本人の意向に沿った雇用形態での継続的安定雇用のための就労アセスメントとその実施体制についても検証を行う。

【主な実証調査概要】 ※デジタル田園都市国家構想交付金 地方創生推進タイプ Society5.0を活用



	コーヒーファクトリー スタートアップカフェ (つくばスタートアップパーク内)	つくば市立中央図書館
実施期間	①令和5年7月20日(木)～12月20日(水) ②令和5年7月24日(月)～11月24日(金)	令和5年7月20日(木)～9月7日(水)
実施内容	①②飲食物の配膳、来店者との会話  OriHime Porter	絵本の読み聞かせ   OriHime
実施時間	①月～金 11:30～13:30 (祝日を除く) (オリ研究所パイロットによる操作) ②月～金 15:30～16:30 (祝日を除く) (筑波大学生パイロットによる操作)	木曜日 10:30～10:45 (オリ研究所パイロットによる操作)
実証関係者	就労者：①オリ研究所パイロット ②筑波大学生パイロット 雇用主：オリ研究所(業務委託契約) 実証協力：筑波大学、コーヒーファクトリースタートアップカフェ	就労者：オリ研究所パイロット 雇用主：オリ研究所(業務委託契約) 実証協力：つくば市立中央図書館
雇用人数	①14人 ②5人	4人

障害者就労支援試行業務 つくば市としての就労アセスメント

● 検討の方向性

週10時間未満の短時間雇用等、本人の意向に沿った雇用形態での継続的安定雇用のための検討と体制

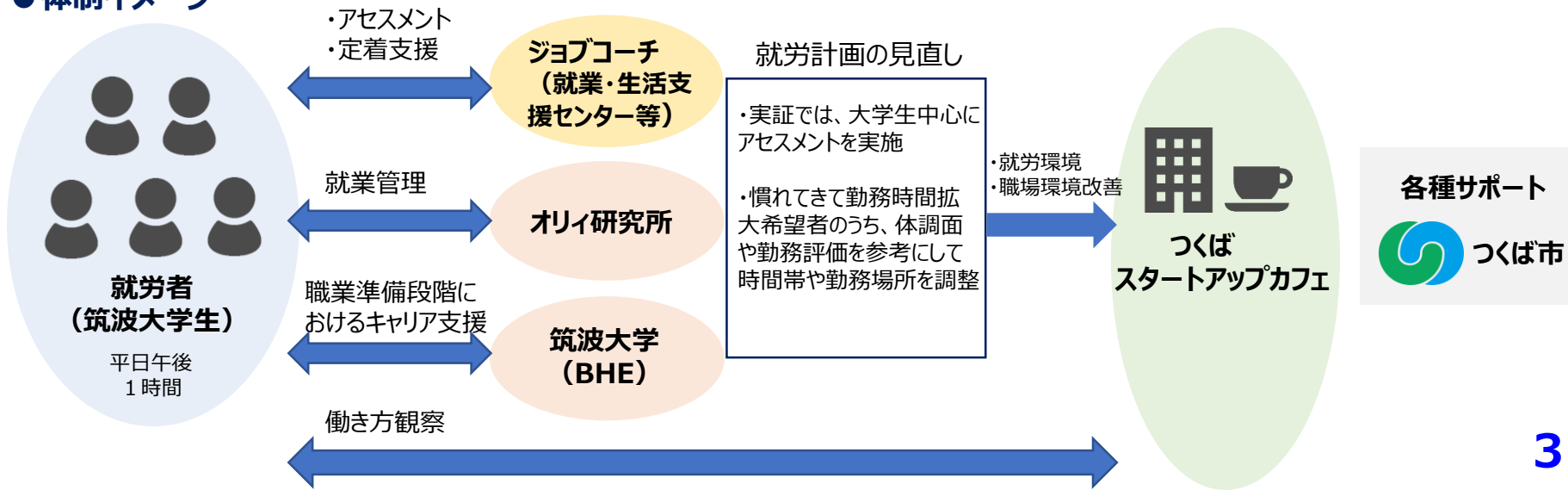
○今年度の実証では分身ロボットによる短時間雇用者の就労定着支援を実施（意図しない短時間雇用等といった課題に有効であるかの検証）。

以下具体的な検討内容

- ・自治体、関係行政機関、雇用主等が連携して、対象とする障害者の就労に関する適性、知識及び能力の評価や就労に関する意向、就労するために必要な配慮等について確認・検討する体制を構築する。
- ・雇用時間の限られた令和5年度につくば市実証に合わせて、雇用主は就労者の意向に沿えるよう雇用環境（3つのステップ）を用意する。
- ・①就業中のアセスメント、②就労者の意向確認、③働き方と職場環境の見直し、といった一連の流れを定期的実施し、就労定着支援を行う。
- ・アセスメント内容に関しては実証の中で就労者と一緒に構築を目指す。

※今後、「雇用契約前の希望就労時間が週10時間未満の就労者等が、週10時間以上の就労を希望した場合」等も想定し、「雇用主が本人の意向に沿った雇用形態を実現する」ための体制や仕組みについても検討していく。

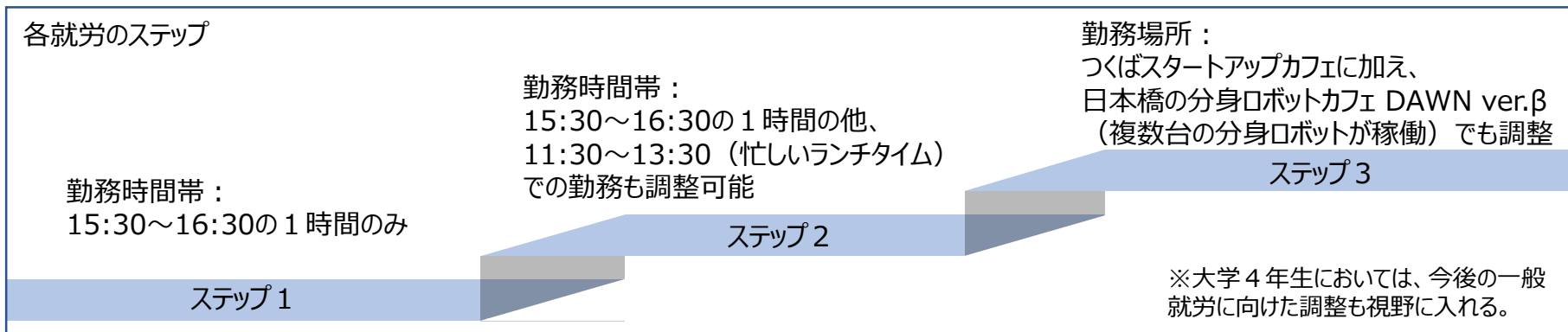
● 体制イメージ



障害者就労支援試行業務 具体的な対応

職場環境と条件

雇用時間の限られた令和5年度のつくば市実証に合わせたアセスメント（雇用の見直し）の枠組みを検討するため、就労者の意向（勤務時間）と就労能力評価に応じて3つのステップ（雇用環境）を用意



スタートアップカフェ

分身ロボットカフェDAWN ver.β

ステップ1・2で求められる能力

就労前（採用時）の評価ポイント

1. 障害の状況、外出困難な状況を確認
2. 就労への意思
今後、企業への直接雇用を希望している
3. チームワークへの適正
リアルスタッフとの会話を理解できるか？
共に働く70名のパイロットとの協調性があるか？
4. オリイ研究所への理解
ビジョンである「孤独の解消」「分身ロボットへの理解」
5. その他
週稼働時間、PCスキル、英会話、カフェでの接客業に向いているか など

繁忙期を含め、1台で単独稼働する場合

1. コミュニケーション能力
 - ・感想、意見を求めて返答があるか？
 - ・雑談への対応
 - ・先輩パイロットやパイロット仲間、カフェスタッフとの会話に問題はないか？
2. PC操作スキルについて
 - ・アプリ操作などに問題がないか？
 - ・音量、OriHime操作などPCなどの操作への反応に問題ないか？
3. 連絡ツール(Slack)への返答
 - ・スケジュールの確認、オリイ研究所からの連絡に反応することができるか？

ステップ3で求められる能力

複数の分身ロボットが同時稼働する場合

1. 先輩パイロットとの協調性
 - ・今までは一人勤務だったが、複数人のパイロットと働くシーンが増える。
 - ・先輩パイロットのお話、動きを見て勉強できるか？
2. 会話力
 - ・OriHimeに会いたくて来店されるお客様が多いため、お客様との会話を楽しむことができるか？
3. 生身スタッフとの協調性
 - ・たくさんの生身スタッフ、また管理スタッフも変わるため、そのスタッフと調和をもって勤務に就くことができるか？
4. 海外ゲスト対応
 - ・英語対応

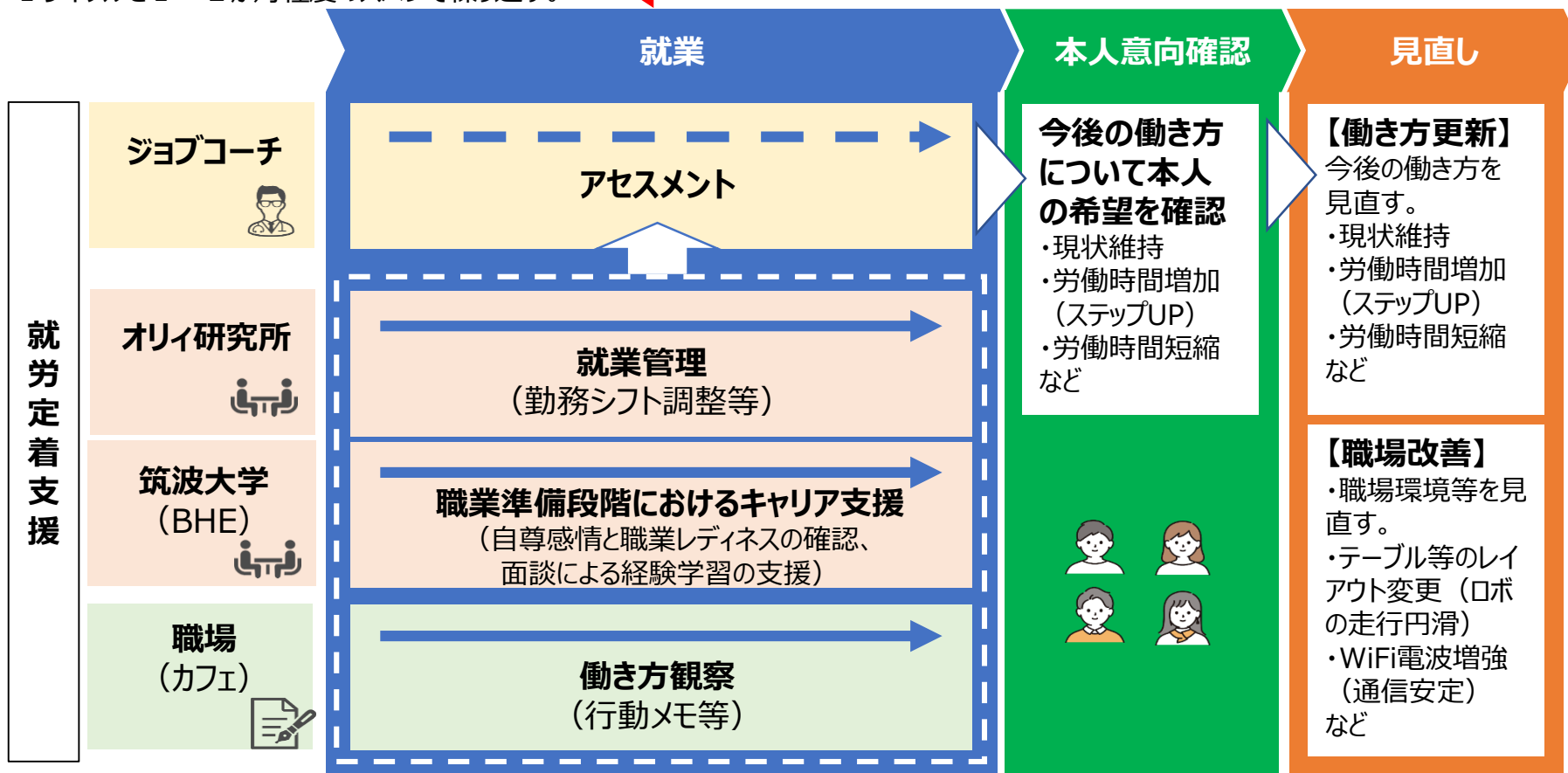
障害者就労支援試行業務 具体的な対応

アセスメントの流れ

本人意向と、就業能力評価に加え、実際にステップ分けの判断を行うためには、ステップに応じたアセスメント・定着支援を実施し、それをもとに見直しを行という一連の流れを1～2か月程度のスパンで繰り返し行う。



1 サイクルを1～2か月程度のスパンで繰り返す。



障害者本人が自分で考える労働市場への参加スタイルを受け止め、支持し、定期的に振り返って労働市場への参加スタイルを検討する仕組みを継続的に模索していく。

障害者就労支援試行業務 関係図

(参考)

このスタートアップカフェでの障害者就労支援試行業務では、分身ロボットを操縦するパイロット（筑波大学生を含む）はオリイ研究所に“登録”し、個人事業主として就労する。

実証関係者

実証場所

